

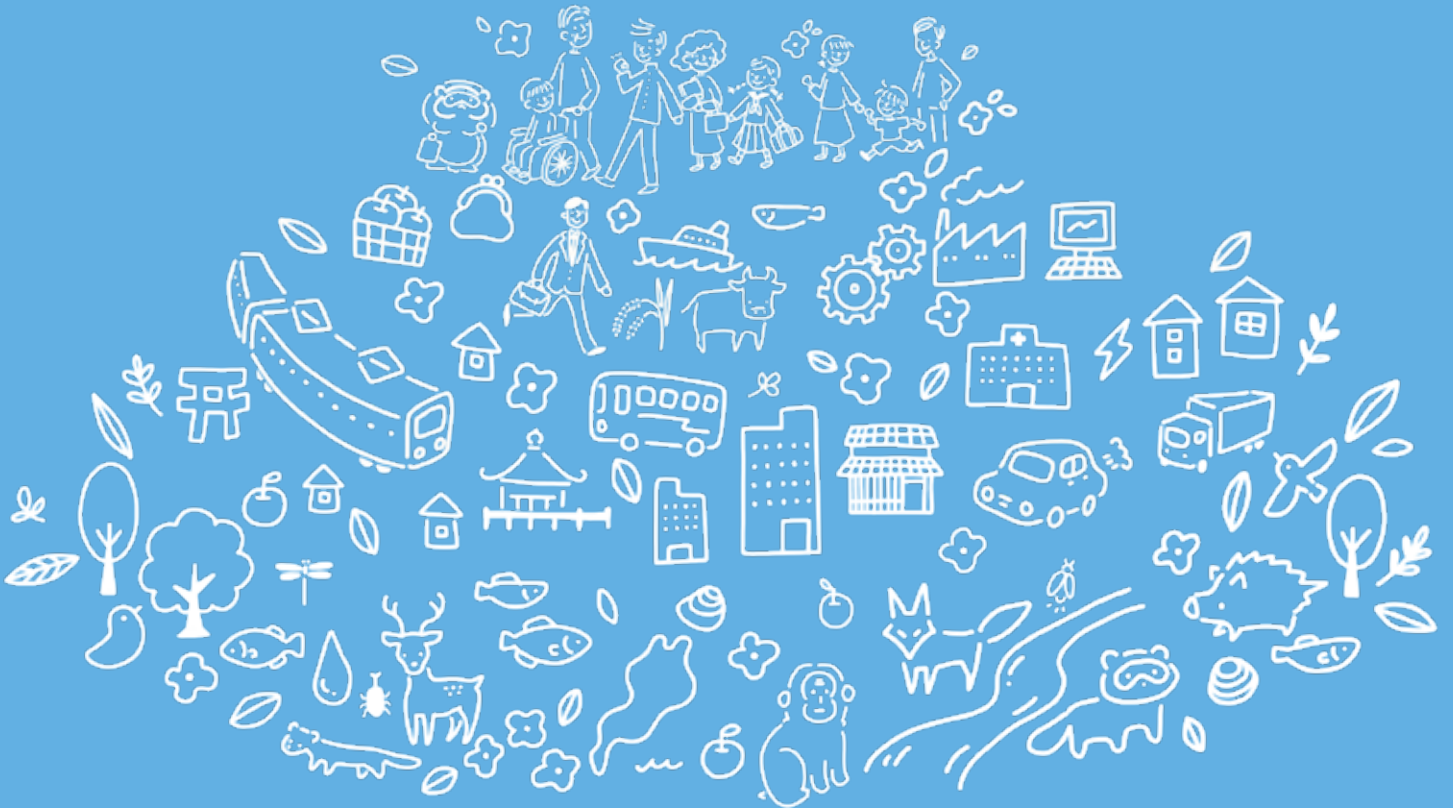


滋賀県基本構想



変わる滋賀 続く幸せ

-Evolving SHIGA-



変わる滋賀 続く幸せ

-Evolving SHIGA-

みんなで目指す 2030 年の姿

基本理念の実現に向け、みんなで目指す 2030 年の姿を、「人」、「経済」、「社会」、「環境」の 4 つの視点で描きます。これは、自分らしい未来を描くことができる生き方と、その土台として、SDGs の特徴でもある、経済、社会、環境の三側面のバランスの取れた持続可能な滋賀を目指すものです。この実現のためには、行政だけではなく、県民一人ひとり、また、NPO、企業、大学等の多様な主体が共通の思いを持ち、互いに連携しながら取組を進めていく必要があります。

社会 未来を支える 多様な社会基盤

ハードとソフトの両面から、地域の特性に配慮した社会基盤の整備が進み、これまで以上に安全・安心な生活や産業活動を支えています。

環境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

すべての人や企業などが環境に配慮した暮らしや産業活動を行うとともに、多様な主体が環境保全活動に取り組み、地域資源を活用した健全な循環のもと、琵琶湖をはじめ、すべてのいのちの基盤となる環境からの恵みがあふれています。



エヴォルヴィング

※Evolving SHIGA: 外部の環境変化に合わせ、伝統・文化や先人の知恵などを生かしながら、柔軟に発展していく滋賀の姿を「evolving(進化)」という言葉で表現したもの。



自分らしい未来を描ける生き方

年齢、性別、病気・障害の有無などにかかわらず、誰もが生涯を通じ、様々なつながりの中で自分らしくからだも心も健やかな生活を送ることができるようになり、健康寿命が延びています。

また、より自分らしい「柔軟で多様なライフコース」を自由に選択し、生涯現役で活躍することや、何度でも再挑戦することができるようになっていきます。



経済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業

環境や社会への配慮、ICT、IoT、AI、ロボット技術、データ活用など第4次産業革命への対応、成長市場や成長分野を意識した産業創出・転換、事業展開等が進み、社会的課題の解決に向けた取組が広がるとともに、Society5.0時代における滋賀の成長を支える多様な産業と雇用が創出されています。



「幸せでありたい。」これは、誰にも共通する思いです。

「幸せ」の感じ方は、一人ひとりの価値観により異なります。

また、その価値観は時代によっても変わってきました。

私たちは今、非常に大きな変化に直面しています。

しかもその変化は、世界がこれまで経験したことのないものです。

この未知の変化の中で、私たちがしなやかに変わり続け、

行動することにより、一人ひとりが幸せを感じることができる

滋賀をみんなの力でつくります。

人



自分らしい未来を 描ける生き方

「人生100年時代」と言われる長寿の時代の中、誰もが生涯を通じ、自分らしくからだもこころも健やかな生活を送ることができ、柔軟なライフコースを自由に描くことができるよう、環境の整備を進めます。

県の政策の方向性

- 生涯を通じた健康づくりと健康管理による予防
- 生まれてから人生の最終段階まで切れ目のない適切な医療福祉サービスの提供
- 誰もが居場所や生きがいを持ち、生涯を通じて自分らしく活躍できる社会づくり
- 社会全体で子どもを育む環境の整備
- 子どもがたくましくしなやかに生きる力を身に付けるための教育
- 生涯学び続け、様々な分野で活躍し続けることができる社会づくり



具体的な取組事例

健康寿命日本一／病気予防／地域医療福祉

こころの健康／文化・スポーツ／子育て・教育

リカレント教育／再挑戦／テレワーク

経済



未来を拓く

新たな価値を生み出す産業

世界の経済情勢の変化や技術革新が激しく、就業構造の変化が続く中、グローバルな経営視点や先端技術等により、競争力を有する県内産業の創出と、多様な人材の育成・確保や事業承継を支援します。

県の政策の方向性

- グローバルな経営視点や先端技術等による競争力を有する強い県内産業の創出
- 働き方の多様化と働く場の魅力向上による多様な人材の確保と事業承継の支援
- 生産性の向上や高付加価値化等による力強い農林水産業の確立



水環境ビジネス
(JICA 草の根技術協力事業/ベトナム)



近江牛

具体的な取組事例

IoT / AI / イノベーション / ESG 経営

ダイバーシティ / 高度人材育成 / 事業承継

スマート農業 / オーガニック / 観光・魅力発信

社会

未来を支える 多様な社会基盤

人口減少、高齢化の進展により、地域それぞれの状況が変わっていく中、地域社会を支える基盤として、道路や河川、ICT環境などの社会インフラの整備や、多様な人々の参加による住民が主体となった地域づくりなどを進めます。

県の政策の方向性

- 社会インフラの整備とコンパクトで移動・交流しやすいまちづくり
- 自分たちの身近な暮らしを支える、安全・安心な地域づくり
- 農山漁村の持つ多面的価値の持続可能な継承
- 多様性を認め、互いに支え合う共生社会づくり



棚田



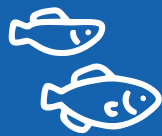
具体的な取組事例

強靱なインフラ／コンパクトなまち／ICT基盤

地域公共交通／地域コミュニティ／農山漁村

安全・安心／自然災害への備え／共生社会

環境



未来につなげる 豊かな自然の恵み

持続可能な社会経済活動が世界の潮流となる中、すべてのいのちの基盤として、琵琶湖や環境の保全再生と活用や、地球規模の環境問題への対応、持続可能な社会づくりを担う人材の育成などを進めます。

県の政策の方向性

- 琵琶湖を取り巻く環境の保全再生と自然の恵みの活用
- 気候変動への対応と環境負荷の低減
- 持続可能な社会を支える学びと暮らしの定着、国際的な協調と協力



森林環境学習「やまのこ」事業
(枝打ちの見学)



ビワマス



うみのこ
(びわ湖フローティングスクール)

具体的な取組事例

琵琶湖の保全再生・活用／地域資源の循環

気候変動への対応／低炭素・脱炭素社会

やまの健康／環境を支える人育て

What's 滋賀県基本構想？

●みんなの力を合わせて、目指す未来をつくります。

この「滋賀県基本構想」は、みんなの力を合わせ滋賀の未来をつくっていくための将来ビジョンです。県は、その実現に向け、一緒に取組を進めます。

●SDGs の特徴を生かします。

この基本構想では、目指す2030年の姿として、自分らしい未来を描くことができる生き方と、その土台として、将来にわたり持続可能な滋賀の姿を描きます。その実現のため、「経済」、「社会」、「環境」のバランスを図る統合的な取組であるSDGsの特徴を生かします。

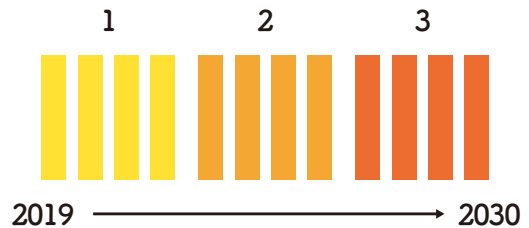
●2030年度までの12年間の計画とします。

私たちはこれから、人口減少、急激な高齢化、第4次産業革命と呼ばれる技術革新、リニア中央新幹線など都市の姿を変え得る高速交通の整備といった大きな社会的変化に直面します。

この基本構想は、これらの大きな変化のその先、2030年度までの12年間(2019年度～2030年度)の計画とします。

滋賀県基本構想実施計画

この基本構想に基づく県の取組を着実に進めるため、計画期間である2030年度までの12年間で4年ごとの3期に分け、その期間の政策を定めた「実施計画」を策定します。



目指す姿の実現に向けて活かすべき滋賀県の特徴

- 全国トップクラスの健康長寿県
- 大学等の知的資源の集積と自ら学ぶ姿勢を持つ県民性
- スポーツや運動に親しむ県民性
- 近江商人「三方よし」の理念
- 自分たちの地域を自分たちで守る住民自治の実践
- 一人ひとりの存在を光とする、共生社会の精神
- 経済圏の結節点に位置し、太平洋側にも日本海側にもアクセス良好な恵まれた地理的条件
- 研究開発拠点の集積による特色あるモノづくり
- 豊かな歴史や文化芸術
- 恵まれた自然環境・生活文化
- 琵琶湖と共生する、環境に配慮した特色ある農林水産業と多彩な食文化
- 様々な価値を有する「国民的資産」琵琶湖
- 森・川・里・湖が繋がった環境
- 世界の湖沼環境保全などへの貢献

「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」とは？

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)。

2030年までに、発展途上国だけでなく、先進国も含めた国際社会が取り組むべき17の目標。2015年9月の国連サミットで採択されました。

私たちは、地球を救うことができる最後の世代となるかもしれないと言われています。

持続可能な社会をつくるために、経済成長、社会的包摂(「誰一人取り残さない」)、環境保護という3つの課題を統合的に解決することを求めています。



SHIGA × SDGs



滋賀県基本構想

変わる滋賀 続く幸せ
-Evolving SHIGA-

平成31年(2019年)3月策定

発行者：滋賀県(総合企画部企画調整課)
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号
電話 077(528)3312 / FAX 077(528)4830
E-mail kikaku02@pref.shiga.lg.jp
HP <https://www.pref.shiga.lg.jp/>



滋賀県基本構想

